

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	各教科等における特徴的な指導の実践事例
-------	---------------------

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

愛知県津島市

学校名

津島市立藤浪中学校

学校のURL

<http://www.schoolweb.ne.jp/tsushima/fujinami-j/>

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】全学年各5学級、【特別支援学級】1学級、【合計】16学級

児童生徒数

【全生徒数】543人（平成23年11月30日現在）
（内訳：1年生177人、2年生178人、3年生188人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】 「自立」と「共生」

【人権教育に関する目標】

（重点目標）

- （ア）基本的人権の尊重が、民主的な社会生活の基本であることを自覚させ、あらゆる差別やいじめを許さぬ態度を育てる。
- （イ）科学的・合理的な見方や考え方を育て、差別やいじめに対する認識を深め、社会的な判断力を育てる。
- （ウ）職業に対する偏見をなくし、正しい職業観・勤労観を育てる。
- （エ）苦難に負けない強固な意志と自主・自立の精神を培い、人生を切り拓いていく主体的な態度を養う。
- （オ）差別やいじめのない、よりよい社会を実現していくための強い正義感と連帯感を育てる。

人権教育にかかる取組の全体概要

学校の教育活動全てを通じた実践

人権週間（12/4～10）に、「心の集会」を行ったり、いじめ防止の人権標語の作成に取り組んだりしている。

学年に応じた実践

学年別重点目標を設定し、各教科等の学習を通して、偏見や差別の要因について認識し、それらの解消に取り組む実践的な態度を育てている。

3. 特色ある実践事例の内容

第2学年社会科における人権問題を正しく理解し、共生力を高める取組

(取組のねらい、目的)

人権の視点から児童労働について考える場を設定することで、人権に対する理解を深めさせ、常に自分と他者の関わりを感じながら物事を考えていく力を身に付けさせる。

(取組を始めたきっかけ)

日常生活において、すぐに正解を求めて物事を深く考えようとしなかったり、クラスメイトの身に起こったことを他人事で済ませて、自分とは関係のないことと割り切ったりする生徒を目にすることが多い。また、社会科の授業においても、身の回りのニュースの内容は知っていても、まるで別世界で起こっているような口ぶりで話すなど、間接的にでも自分と関わりのあることだと捉えられていないと感じることがある。このため、世界各地で起こる様々な事象が、一個人とつながりのあることだと実感させる必要があると考えた。

(取組の内容)

身近なチョコレートを取り上げ、人権の視点から子どもに関する問題や貧困・労働問題について考える場を設定した。

1 なぜ、こんなにチョコレートの値段がちがうのだろう？

最初に、値段の安いチョコレート(88円)と高いチョコレート(787円)を見せ、どうしてここまで値段の違いが生じるのかについて自由に意見を発表させた。生徒はあまりに高いチョコレートに驚いた様子で、「質が違う」「作っている国が違う」などの意見を多く出した。その後、チョコレートがどこでどのように作られているのか映像を見せ、自分たちが普段よく食べているチョコレートの原料であるカカオが、アフリカの子どもたちの過酷な労働(児童労働)によって作られていることを理解させた。その上で、子どもたちを過酷な労働から守るためにつくられたフェアトレードチョコを紹介し、それが高い方のチョコレートであることを説明した。

2 なぜ、児童労働がなくなるのだろうか？

次に、なぜ児童労働が問題なのか考えさせ、意見を発表させた。生徒からは、「危険だから」「学校に行けないから」「長時間働かされているから」などの意見が出された。これをふまえて、人権(誰もが生まれながらにもっている自分らしく幸せに生きる権利)が守られていないから問題になるのだと、「人権」という言葉を理解させた。特



【なぜ児童労働が問題なのだろう】

に、「子どもの権利条約」において、子どもの人権が保障されており、世界のほとん

どの国が批准していることも紹介した。しかし、児童労働がなくなる現状があり、なぜ児童労働がなくなるのか考えさせた。生徒からは、以下のような意見が出された。

- ・子どもの方が、人件費が安いから
- ・家族を守らないといけないから
- ・子どもが働いて親にお金を送るのは当然だと、大人が思っているから
- ・「子どもの権利条約」を大人が無視しているから
- ・国や国民が貧しく、富のあるものが貧しい人を働かせるような仕組みになってしまって、格差社会から逃れられなくなっているから

3 自分にどんなことができるだろうか？

その後、児童労働が身近な問題であることを意識させるため、授業者が旅行先のアジアで遭遇した児童労働の例を写真で紹介した。自分の生活とあまりにかけ離れた生活を送っているアジアの子どもの様子に、驚きの声があがった。また、サッカーボールや綿のシャツなど、自分が普段何気なく使っているものも、児童労働で作られたものだということを紹介した。このように、児童労働は決して自分と関係ないものではないということを確認させた後、「児童労働という問題を解決するために自分にどんなことができるだろうか」と問いかけ、自分の行動と世界の出来事とのつながりについて考えさせた。

(取組を実現するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫)

社会科で扱う内容は、身近な話題であっても、自分の暮らしと関係のない地域や国の場合は、イメージをもちにくい。そこで、実物や写真を多く用いたり、毎日の生活と関わりのある「食」に注目させたりした。具体的には、フェアトレードチョコを実際に見せる、ガーナでの児童労働の様子を映像で映し出す、旅行先で目にした児童労働の場面を写真で見せる、などの工夫をした。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(実施による効果)

今回の取組により、大きく2点の効果が見られた。一点目は、児童労働の背景を世界の人口問題や貧困問題から捉えることができるようになったことである。2点目は、人権の視点を取り入れたことで世界の問題をより身近なものに感じ、主体的に考えることができるようになったことである。

1点目については、「なぜ児童労働がなくなるのか」について考えさせた際、初めは「子どもの方が人件費が安いから」「家族を守らないといけないから」など、その子どもの置かれた環境にしか目が向かなかったが、次第に「国が格差社会・貧困から逃れられなくなっているから」と世界の経済構造や貧困問題から考えられるようになった。取組の前時に世界の人口問題や南北問題について学習していたこともあり、チョコレートの生産国と消費国の関係が、南北問題と関係があることに気

付くことができた。

2点目については、「児童労働という問題を解決するために自分にどんなことができるだろうか」という問いかけに、自分の行動で世界を少しずつでも変えていこうとする意見が多く出された。ワークシートの記述から、児童労働について初めて知り、自分の生活とあまりにかけ離れた児童労働の実態に衝撃を受けた生徒が多く、「勉強したくても働かないと生きていけない子どもたちがいるので、これからはそういう子どもたちのことを考えて、勉強できることに感謝して生活していきたい」「食べ物を感謝して食べようと思う」という言葉に、恵まれた環境に育っていることへの感謝の気持ちが含まれていることが分かる。

◇ 感想

(児童労働という問題を解決するために、自分にどんなことができるだろう、など)

今回の学習は、自分がどれだけ幸せ暮らしているか
気がされました。私たちができることなんて小さいかも
しれないけど、今の自分に出来ることを精一杯やりたいと
思いました。これから商品を買う時も、どのような品物を買
うにしたいのかを考えていきたいと思いました。
人権というものがあんなにいろいろな国で
協力して子どもを守っていくにしたいと思います。

また、具体的な行動として、「自分にできることは、物を大切にすること」「募金をする」などと、身近なことから実践しようとする気持ちが芽生えたり、「豊かな日本から世界の仕組みを変えていく

【生徒のワークシートより】

べき」「フェアトレードチョコを買って貢献する」と国際的な視点で考えることができた生徒もいた。更に、「人は生まれながら人権が保障されるべきものだから、児童労働を解決するためには、お互いの人権を尊重していくべき」と書いた生徒も多く、人権についての知識や理解も深めることができた。

全体として、一つの物から世界の出来事について考えられるようになり、常に自分と他者の関わりを感じながら物事を考えていく力を身に付けることができた。

5. 実践事例についての評価

(取組についての評価)

チョコレートという身近な物を取り上げたことで、生徒は、児童労働の問題を、自分と関係のあることとして捉えることができた。また、人権の視点から児童労働を考えさせることで、自分の置かれた環境と比較させながら、いかに人権が守られることが難しく、かつ、大切なのかという人権に対する理解を深めさせることができた。同時に、地理的な視点だけでなく、人権の視点からも児童労働やその背景について深く理解させることができた。

今後も、身近な物を取り上げたり、多面的・多角的な視点で事象を扱ったりして人権に対する理解を深めていけるような実践を探っていきたい。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

津島市立藤浪中学校

人権教育が、民主的な社会を形成する力を育てるものとして位置付けられている点に大きな特徴がある。「自立」「共生」および「正義感」「連帯感」など、人権が尊重される社会を実現するために必要な普遍的資質に焦点があてられ、偏見や差別の解消に取り組む態度を育てようとしているところが注目される。とくに実践事例として紹介されている中学 2 年社会科の取組は、児童労働というグローバルな問題について考える内容になっており、身近なチョコレートをめぐる地球規模の相互依存関係を多面的に分析することを通じて、個人と地球社会のつながりを実感させるものである。さらに、児童労働という問題を解決するために何ができるかを考えることにより、「第三次とりまとめ」が強調する人権感覚や人権意識を育むことにもつながっている。